

科目ナンバリング		U-SCI00 22407 SJ58				
授業科目名 <英訳>	観測地球物理学演習 B Observational Geophysics Laboratory B		担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 理学研究科 教授 理学研究科 教授 理学研究科 助教 理学研究科 准教授	楠本 成寿 吉川 裕 大沢 信二 澤山 和貴 宇津木 充	
配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2025・通年集中	
曜時限	集中講義	授業形態	演習（対面授業科目）	使用言語	日本語	
科目番号	2407					
【授業の概要・目的】						
野外や室内実験での現象の観測は自然を読み解く最初の一步である。本演習では、地形や地質、活断層、地下水、海洋現象を観察し、地球の様々な領域での物質の移動や循環等を推定する手法について概観する。野外と室内での複数の研究分野の手法を体験することで、地球で生じる現象を多様な分野のアプローチで読み解く感覚を得ることを目的とする。						
【到達目標】						
地球物理学の観測・データ整理に関する正確で幅広い知識を理解する。また、情報整理・レポート作成するための能力を養う。						
【授業計画と内容】						
本演習は夏季休暇中(8月~9月)に集中して行う。ただし、状況に応じて時期や内容を変更する可能性がある(場合によっては後期以降の期間への延期もあり得る)。						
1.実習の事前説明(6月中旬から7月中旬の間の指定された日の昼休み1時間程度) 理学部キャンパスにおいて実習の事前説明を行う。						
2.実習(3日)「読む」をキーワードに、「地形を読む」「水を読む」「海を読む」の3項目に分けて実施する。また、既存のデータ・情報システムを用いて、より広い観測や実験のデータにアクセスし、得られたデータの解釈等を行うこともある。各項目内容については以下の通りである。						
(1)地形を読む：地殻活動(火山や活断層の活動)に起因する地形の観測						
(2)水を読む：温泉や噴気を含めた地下水や河川の観測						
(3)海を読む：沿岸域での海洋変動の観測						
(注) 天候状況などで内容を変更することがある。						
3.実習レポート(実習中または実習後) データの解析結果およびその考察をレポート形式にまとめる。						
【履修要件】						
必須ではないが、前期開講の「観測地球物理学」を履修することを強く推奨する。						
----- 観測地球物理学演習 B (2)へ続く -----						

観測地球物理学演習 B (2)

[成績評価の方法・観点]

実習中の平常点(60点)とレポート(40点)により評価する。
単位取得には実習への参加とレポートの提出の両方が必須である。

[教科書]

実習注意事項(事前準備項目等)説明を京都で開催する事前説明会で実施する。
実習時は実習テキストを準備する。

[参考書等]

(参考書)
現地資料を適宜追加するとともに、実習講義中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

予習・復習は特に必要ないが、実習に参加するにあたり十分に体調を整えておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・集中実習の形式で実施するため、参加可能人数の制限がある。事前に実施スケジュールを掲示し、参加登録を実施する(5月から6月下旬予定)。なお、調整においては2回生配当科目であることを考慮する。
- ・京都の吉田キャンパスで、事前の説明会を実施する(6月中旬から7月中旬の間の指定された日の昼休み1時間程度)。
- ・学生教育研究災害傷害保険(学生課厚生掛)や生協の学生総合共済に加入しておくこと。
- ・実習に係る経費は受講生が負担すること。
- ・本講義は「通年集中」であり、前期または後期の一方を休学した場合には、単位を取得できないことに留意すること。
- ・オフィス・アワーは特に定めないが、授業終了後に質問を受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。